

## 米国老年学会 2023 (GSA2023) に参加して

運動機能科学領域 中村 美砂

アメリカフロリダ州タンパで、11月8日から12日の5日間開催された米国老年学会 2023 (Gerontological Society of America 2023) に参加、発表してきました。

同学会は、アメリカを中心に世界各国から老年学に関わる医師、看護師、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカー、医学研究者など多職種が参加している年1度の大きな学会です。学会会場では、「認知症」「フレイル」「老年学教育」「ICT」というキーワードが目立ち、生物学、公衆衛生学、看護学、栄養学、医学、社会学、心理学、経済政策など様々な専門分野の研究者から報告されていました。5日間で550ものセッションが開催され、2800もの発表がありました。毎日、朝6:30から夕方6:00頃まで行われました。

私は初めての参加でしたが、学会運営は非常にシンプルで、抄録集などの紙の配布が全くなく、日本の学会で見られるランチョンミーティングもなく、主催者側の運営負担は非常に軽いだらうなと思いました。一方で、学会アプリを通じたアナウンスが定着しており、朝から夕方までその日の口演の案内が大量に送られてきました。行き交う人々は常に、スマホやタブレットを見ていました。また、発表の時に右手でぐずる乳児を乗せたベビーカーを揺らし、左手でプレゼンをする女性もいて、海外での学会らしい光景だなと感じました。

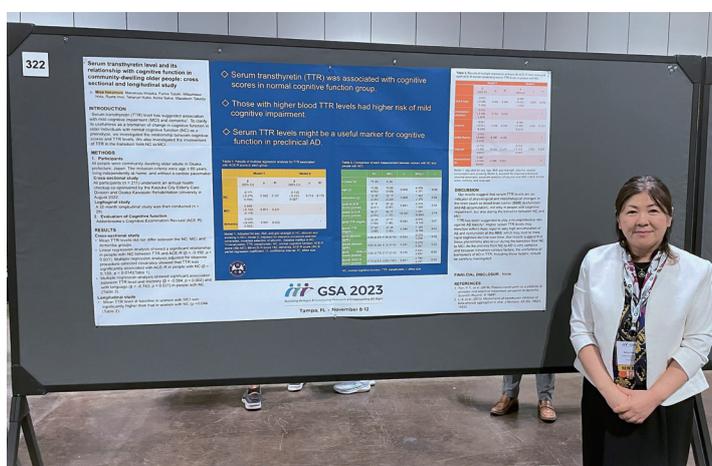
口演では、「運動認知リスク症候群 (MCR)」の概念を提唱した Dr. Joe Verghese のシンポジウム (一緒に写真撮影をしていただきました!) や、「認知予備力」を提唱した Dr. Yaakov Stern のグループの発表を拝聴しました。彼らは最近よく目にする「trajectory」の概念をこの認知予備力の研究に取り込んでいるようでした。いずれにしても本や論文でしか知りえることのなかった人々との出会いというのも感動的なものでした。

ポスターセッションは、掲示したポスターの前で参加者に説明や討論を行うという形式でした。印象的だったのはポスターの形式が厳格に決められているため、全てのポスターの中のどこに目的や結論が書かれているかが明確なので、内容を理解しやすかったです。私の発表は、認知機能が正常範囲の人でも血中トランスサイレチンレベルが高いほど認知機能テストのスコアが低く、その後の軽度認知障害への移行率も高いことを明らかにしたという内容です。「トランスサイレチンの機能は?」、「脳との関係のメカニズムは?」といった質問がありました。

日本からはるか遠くのタンパまで約1日をかけて参加した本学会を通じて、私にとって老年学がこれまで以上に身近な学問となりました。



学会会場 (タンパコンベンションセンター)



ポスター会場にて